



2021.

10

えんだより



ArteKodomotoKi

社会福祉法人 種の会 アルテ子どもと木幼保園

〒164-0001 中野区中野 1-59-5

Tel 03-3365-0602

ホームページ URL <http://www.tanenokai.jp/>

お知らせ

- 6日（金）15時から運動会の準備をします。保育者が準備に参加できるように、可能なご家庭は早めのお迎えにご協力をお願い致します。
- メールでお知らせしました通り、1日（金）より門の暗証番号が変わりますのでご注意ください。
- 10月下旬から12月の期間に個人面談を行います。ご希望される方のみ、感染症対策をしたうえで保育参観を予定しております。詳細は後日ご連絡致します。コロナの状況によっては、実施できないこともございますことをご了承下さい。

October 10 2021						
sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
					1 全体練習	2
3	4	5 音楽あそび	6 全体練習	7 運動あそび	8 発育測定	9 運動会
10	11	12 音楽あそび	13	14 運動あそび	15	16
17	18	19 音楽あそび	20	21 運動あそび 全園児健診	22 誕生会	23
24	25	26 音楽あそび 避難訓練	27	28 運動あそび	29	30
31						



みんな違ってあたりまえ

園長 山田寿江

園舎内にある自然木は、種類もいろいろで同じ形のものはありません。子ども一人ひとりの個性とも重なります。「多様性（ダイバーシティ）」という言葉を目にすることが増えました。金子みすゞさんの「みんな違ってみんないい」もよく耳にします。みすゞさんの詩は、鈴と小鳥と私について表現していますが、人はそれぞれ違っていいという意味で使われることが多いようです。

同じ人はいないわけですが、みんなの中で自分だけが“違う”と何だか居心地が悪いのです。人からどう思われるのかが気になるのかもしれませんが。“同じ”には、安心感があります。日本人は「同調圧力（ピアプレッシャー）」が強く、空気を読んで周囲の価値観に合わせる傾向があるともいわれています。協調性が大事だからと自己を抑え、自分らしさを見失わないようにしたいものです。

自分の行動や意見が人に認められるかどうかは気になりますが、人と違って当たり前なのですから、こうしたい！こう思う！を表現することを大切に、自分の考えを伝え、他の人の意見も聞いて、対話しながらより良い選択肢をみつけていくことができればいいですね。お互いに育ちあう関係性が持てる保育を目指したいと思います。

「今やりたい！」～制作した船を浮かべる～

船を浮かべる小さなプールは片づけた後…。慌てて倉庫からプールを出して、散歩前の5さいナノ組へ声をかけると、一人大きな声で「今やりたい！」とHくん。門を出る直前だったので結局、お散歩へ行ったのですが、自分の気持ちをはっきりと伝えてくれたことが嬉しかった一場面でした。もちろん、その後しっかり船を浮かべて遊びましたよ。

法人の研究会でエリクソン（精神分析学者）の理論を学んでいます。とても難解ですが、子育てや保育、人材育成にヒントを与えてくれます。『**子どもの心が見えてくるーエリクソンに学ぶー**』（佐々木正美著）は、子どもに接するすべての人の役に立つようにと、エリクソンの発達論が分かりやすく書かれた本です。



人格は、人間関係により形成されていくもので、乳児期は、望むことを十分にしてもらうことで基本的信頼が育ち、自分を信じることができるようになるといいます。幼児期は、教えて待つことが重要で、早くできるかではなく、いつできるか子どもが「自分で決める」中で自律性が育ちます。大人がコントロールするのは他律ということです。児童期（幼児期後半）は、実験や想像、創造があるいたずら遊びを十分にすること、学童期は仲間との遊びの中で友だちから学ぶことに価値があるといいます。青年期の発達課題はアイデンティティ、価値観を共有できる仲間が必要であるということです。

完璧な親はいません。保育者だって迷います。現代社会の子育てで大変さを感じる時、エリクソンは「道しるべ」となり問題を解くカギとなりそうです。

年長児の運動会競技に“くじ引きリレー”という競技があります。リレーの直前に箱の中から番号のついたビブスを引くことで、自分の走る順番とチームが決まるというものです。初めてくじ引きリレーに挑戦した日、くじを引くというワクワク感から子ども達は大はしゃぎでした。箱の中に手を突っ込んで「私、5番だ」「あ～1番がよかったのにな」「6番だよ！一緒に走れるね」と順番にくじ引きを楽しんでいました。



しばらくすると、先頭付近で揉め事が……。 「違うよ、どいてよ！」「私が1番だったの！」「Aちゃんが違うでしょ！」自分が1番だと主張するAさんと周りにいた数名が激しく言い合っています。Aさんはビブスを床に叩きつけて、部屋の隅でうずくまりました。ビブスを拾い上げて見てみると4番と書いてあります。Aさんは1番にくじを引いたから1番に走れると勘違いしていました。涙をポロポロと流しながら怒っています。横に座り、話をする中でルールを説明しましたが聞き入れません。「そういえば、あなたのお兄さんもこのくじ引きリレーをしたんだけど覚えている？」と尋ねると、Aさんはフッとルールが理解できたような表情をしました。すると今度は矛先を変えて「だって、みんなが1番じゃないって意地悪いうんだもん。それが嫌だったの！」「それは悲しかったね。でもね、あなたと一緒に走る青チームの4番さんを見てごらん。一緒に走る人がいなくて困ってうつむいてるけれど、どうしようかしら」その姿を見るとAさんはスッと立って列に戻って行きました。列の子ども達も受け入れます。子どもは切り替えるポイントを見つけるとすぐに素直な心を表現し直ります。喧嘩を見るたびに、子どもの頃の人間関係って素敵だなんて思います。



今月の表紙の絵はポップコーンの爆発はなぜ起きるのか。トウモロコシの粒の中がどうなっているのかをイメージして描いたものです。夏に収穫したトウモロコシをKくんが干してみたと言ったことからポップコーン作りをしてみることにになりました。園の畑で採れたトウモロコシは乾燥すると実の粒がしぼんでしまいました。調べるとポップコーン用のトウモロコシがあるということで農家から取り寄せてポップコーン作りを体験しました。子ども達は小さな粒の中で何が起きるか想像し、描いたものを見せながら発表しました。魔法がかかったり、爆弾が入っていたり、中で栄養が固まったりと面白い想像がたくさんありました。12月のアート展で展示したいと考えていますので楽しみに。
主任 黒木

Ato 0

だんだんと涼しくなり、近くの公園へ散歩に行く機会が増えてきました。保育者がテラスでバギーや靴を用意していると、“お散歩だ！”とすぐに気付いてテラスの方へ近付いてくる子どもたち。「んあー！」と大声を出してアピールし、待ちきれない様子です。



保育者が散歩の準備をしていると、Aさんは置いてあった自分の靴を見つけて嬉しそうに手に取りました。保育者は「Aちゃん靴履こうね。ちょっと待ってね」と声を掛けます。すると突然その場に座り込むAさん。

『少し待ちつかれてしまったかな?』
そう思っていると、Aさんは自分で靴下を取り、その靴下を広げたりつま先にはめたりしながら、保育者の真似をして自分で靴下を履こうとし始めました。Aさんなりに工夫をしながら様々な方法を試した後、最後は保育者に“履かせて!”とアピール。保育者と一緒に靴を履き終わると、満足そうな顔でスタスタと歩き始めました。

保育者の行動や自分の身の回りのことにも少しずつ興味を持ち始め、興味のある物に手を伸ばしてみたり、保育者の真似をしようとしたりする姿が増えてきました。

公園へ行くと、木の実や葉っぱなど秋ならではの自然がたくさん。バギーに乗っている子どもたちに木の実を手渡してみると…

不思議そうな顔をしながらじっくりと感触を確かめるBさん。

保育者に“見てー!”と木の実を見せて喜びCさん。触るのは少し怖いけれど、興味津々で遠くから眺めるDさん。

子どもによって様々な面白い反応がありました。園の中では味わえない新たな発見をし、夢中になって木の実を触っていました。よほど気に入ったのか、帰るまで手放さず大切に握りしめる子もいました。



戸外活動が増え、新たな発見を次々と見つける子どもたち。そんな気付きや発見を一緒に楽しみながら、子どもたちと一緒に戸外活動の面白さをたくさん味わっていきたいです。

Ato 1

登って！渡って！

「サーキット行くよ〜！」保育者が声をかけると“待ちました”と言わんばかりに駆け寄ってくる子ども達。週に3回、決まった時間にだけホールに出現する魅惑のサーキットがみんな大好き。音楽が流れている10分間、動きを止めることなく存分に全身を動かしています。なんでも自分でやってみようと保育者の手から離れてひとりで行く姿もあれば、保育者の手を握って安心を感じながら一緒に行こうとする姿もみられます。また、友達の様子をうかがって手を取ると、「一緒に行く？」と気にかける子もいるのですよ。ちょっとしたふれあいもあるのがサーキット。サーキットには登る・降りる・渡る……など様々な動きを経験できるユニットが組まれています。サーキットで経験した様々な動きを、子ども達は活動の中でもたくさん発揮してくれています。



例えば公園にあるベンチ。以前は眺めたり触ったりするだけだったのに、いつの間にかひとりですんずんよじ登っているのです。サーキットでジャンボクッションに幾度となくよじ登ってきた子ども達。ベンチなんて楽々登ってしまうのですね。気付いたら一人二人と増えていき、お行儀よくベンチに腰かけている姿には思わず笑ってしまいます。

また、公園にある縁石はまさに一本橋！これもサーキットで日頃経験している“渡る”の動きです。公園の一本橋はサーキットのよりもずっと長いようだけど、落ちずに渡って行けるかな……？

水あそびを終え、久しぶりに散歩へ出た1歳アート組。春の頃とは打って変わって動きやあそびがますますダイナミックになっており、成長をしみじみ感じました。

サーキットでの経験が、あそびを広げてくれているのだと感じます。

これからは運動の秋ということで、公園でたくさん体を動かし、そして給食をたくさん食べて食欲の秋も満喫したいと思います！

Pico 2

ピコ組の前の廊下で4歳ナノ組のお兄さんやお姉さんがかけっこをしていました。次は自分たちの番！とワクワクしている様子で見つめています。椅子にすわり、自分の名前を呼ばれると「は〜い」手を挙げています。ピョンと跳び上がってお返事する姿も。折り返し地点の三角コーンを回ってくるルールですが、コーンに到着する手前で曲がったり、スタート直後に曲がってしまったりと、ほほえましいシーンが続出しましたが、みんな笑顔で楽しみながら参加しています。さて、本番はどんな様子になるでしょう。楽しみですね。



簡単なルールのある遊びを取り入れています。最初は子ども達に「こんな事をやるよ」とは伝えずに、日頃行っているサーキットの中の一部をふれ合いゾーンに変更しました。サーキット内に取り入れたことで、子ども達もすぐに興味を持ちました。

お買い物のように手に取ったボールを自分たちの持っているカゴの中に次々と入れていき、最後は二人でボールと同じ色の箱まで運んで色の分別をする協技です。

※協技：競うのではなく友達と協力しておこなうこと。



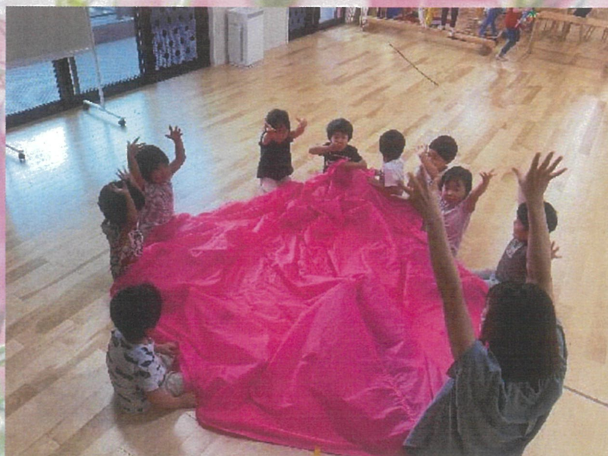
K くんのカゴを持つ手がすべり、せっかく集めたボールが散らばりました。転がるボールの様子を真似してピョンピョンするK くん。ペアのE さんは一人でボールを集めています。やっとボールが集まると、またK くんの手がすべりボールが転がりました。両方の手で持たないとボールが落ちることに気が付いたE さんは一人でカゴを持ち、K くんは後ろをついて歩くスタイルとなりました。H さんとS くんは暗黙の了解で色の担当が決まっているようで、お互いの色を取れるよう声を掛け合います。毎回ペアは変わります。「私が全部やる！」と張り切る子もいれば、「次は、あの色」と指をさして相手にやってもらおう子など、ゴールに辿りつくまでに子ども同士の様々なやり取りがあります。運動会当日もきっとさまざまな関わり合いが見られることを楽しみにしています。

Nano3

全部自分がやりたい！けど・・・どっちがやる？

2人組でルールのある遊びに取り組むことを楽しめるようになってきました。リングを一緒に持ちコーンにかけてあるリングと交換する協技や、ボールを集めて色別に分けるもの、そして運動会でも行う箱たおしなどがあります。初めて箱たおしをした時のことです。ルールをしっかりと理解したAくんと、なんとなく理解しているBちゃんが一緒に取り組むことになりました。競争ではないけれど「急がなきゃ！負けちゃう！」という雰囲気が漂う中、Aくんはどんどん先に行きたいと焦っている様子。Bちゃんはそんなのお構いなしでのんびりしています。Aくんが強引にひとりを進めてしまえば早いすぐに終わるのですが、AくんはBちゃんが戸惑っている様子に気付き、声をかけながら一緒に協力をして足並みを揃えて取り組んでいました。相手の様子を見て一緒に進めていこうとするその優しさに驚きました。運動会当日も勝ち負けではなく、子ども同士の関わり合う姿を見て頂きたいと思っています。

※協技：競うのではなく友達と協力しておこなうこと。



憧れの5歳さん

クラスの窓から見える5歳ナノ組さんのお集まり。運動会のパラバルーンの見本動画を見ていました。その姿に3歳ナノ組さんも興味津々で眺めます。「すごいね！」「先生達がやってる！」と動画も気になるけれど、動画を真剣に見ている5歳さんの姿もとても気になるようでした。動画に合わせて掛け声を言ったり、一緒に体を動かしたりする姿を見て目が輝いています。「みんなも5歳さんみたいにパラバルーンをするんだよ」と伝えると、「楽しみ！」「早くやりたい！」と大興奮。みんなのやる気は5歳ナノ組さんへの憧れによって喚起されました。

「5歳さんがすごいものを見せてくれるって！」5歳ナノ組さんが見本になりミニパラバルーンを披露してくれました。実際に初めて見るパラバルーンに釘付けでした。「今日はミニパラやる？」と、取り組みを楽しみに日々過ごしています。

Nano4

～あこがれ～

去年の運動会で4歳児が取り組んだフラフープダンスを見てからフラフープに興味を持ちました。自由あそびや夕方の時間で音楽が流れると一緒に踊り、フラフープを回せるようになりたいとお兄さんお姉さんに混ざって楽しむ姿がありました。フラフープを軽快に回している姿を見て憧れを持ち「あんなに速く回せないよ」と言っていたKちゃんもいつの間にか回せるようになっていきます。気にはなっているものの、なかなかフラフープに触れる勇気がなかったYくんは、5歳ナノ組のTくん丁寧に教えてもらったことによって、フラフープへの興味が高まりました。見よう見まねで腰で回してみたり、手先で回してみたりと色々な遊び方を発見しました！そんな憧れのフラフープを、今度はほくたちわたしたちが運動会で披露します！



～ともだち～

競争で負けて悔しい気持ちを味わったり、フラフープを回せるお友だちを見て羨ましくなったり、出来ない自分を見せたくないな、そんな色々な気持ちと葛藤している姿もまたひとつ成長の証だと思っています。ある日、「負けるから、かけっこしたくない」と小さな声で訴えてきたAちゃん。その姿を見ていたBちゃんはそばに駆け寄り、「走らないの？」と心配そうに覗き込みました。「一緒に走ろう！負けても大丈夫なんだよ！私がそばにいるから」とBちゃんは伝えました。Aちゃんは不安そうな表情を見せつつもBちゃんと一緒にスタートラインに着くと目を合わせ、笑顔を見せました。「どん！」のかけ声と共に走り出した二人の表情はとても笑顔で、同時にゴールに入ると勢いよく2回目も走ろうと並んでいました。一人だったら気持ちが前向きにならないことも大好きな友だちと一緒になら“やってみよう”“できるかもしれない”そんな気持ちが見えた瞬間でした。時には、お友だちと一緒にいても気持ちが乗らないこともあったり、日によってはみんなの様子を見ていたい時もあったりします。気持ちに寄り添いながらも楽しく本番が迎えられるよう4歳ナノ組、走り抜けます！！

～いっしょ～

「あと何回寝たら運動会？」「明日が運動会？」朝のお集まりで、こんな質問が出てきます。とっても楽しみにしている子ども達もいれば、口には出しません緊張しちゃうな、恥ずかしいな、と不安な気持ちのほうが大きい子ども達もいます。練習も子ども達なりに沸き起こる気持ちと向き合いながらも、いろいろな形で参加しています。本番も予想していない展開が起きるかもしれません。でもそんな色々な表情を見せる子ども達をあたたく応援してください！

Nano5

パラバルーン

「膨らんだ、すごい！」
「先生がいるー。」
「結構、これは長いね。」
「波が難しそうだね。」
「斜めが反対になってる。」
「隠れているよ、いないいないばー。」
「最後まで難しいから、本番で出来るかな。」
「面白かった！」
「みんなが楽しそう。」
「最後にバーンって天井まで届けられるかな。」
「誰が最初にせーのってやるかだね。」
「これが出来るって先生たちすごいね。」
「天井まで届いてる。どうやったら出来るんだろう。」

保育者たちが出演するパラバルーンの動画を観た子ども達の声です。手を動かしたり思ったことをつぶやいたりして興味津々で動画を観ていました。



動画を10日間観てからパラバルーンにチャレンジしました。大人から指示を出さずに様子を見てると、友だちと声を掛け合って楽しそうに演じていました。

「もっと練習してうまくなりたい！」そんな気持ちでいっぱいになった子ども達でした。



写真は初めて取り組んだ日の様子です。「みんなが一緒だから楽しい。」「みんながいたから勇気がでた。」と素直な気持ちを発表していました。運動会までは自分たちの動きを動画で観て気づいたことを伝え合ったり、うまく出来る方法を自分たちで考えたりします。広い体育館で演技するのは運動会が初めてです。クラスで心をつなげた“ダイナミック・パラバルーン”をどうぞお楽しみに！



マット運び

マットの上をハイハイで素早く移動すると、頭上をマットが通り抜けます。ルールを理解していないと体にマットがぶつかったりうまく前に進めなかったりするのですが、できるだけ体を丸くしたり素早くマットを運んだりしてチームで協力し合っています。ホールではマットを2つ折りにしたり広げて使ったりといろいろなパターンで取り組んできました。運動会でも力を合わせて頑張ります！

かけっこ

かけっこの順番は決まっています。走りたくなったら椅子に座って次の順番を待つというルールです。スタートでフライングがあった場合は仕切り直して再度スタートラインに立ちます。走るのも、応援するのもドキドキですね。まばたきするのも惜しいくらいの一瞬です。ゴールまでかいっぱい走る子ども達に応援をよろしくお願いします。



くじ引きリレー

なんと走る順番もチーム分けも決まっています。直前にビブスのくじ引きをしてチームや順番が決まります。初めてくじ引きリレーにチャレンジした日のことです。負けて悲しかった友だちにそっと寄り添う姿がありました。優しく触れた手から気持ちは伝わったと思います。何が起こるか分からないくじ引きリレーですが、チームで力を合わせて最後まで頑張ります。保育園最後の運動会、嬉しいような寂しいような複雑な気持ちですが……やっぱり楽しみです！



Atelier



「不自由という自由を楽しむ」



子ども達は保育園で、毎日様々な遊びに夢中になっています。その様子を見てみると、子ども達にとっての遊びは大人の遊びとは全く違うもののように感じます。では子どもにとっての遊びは、どういう意味を持っているのでしょうか。

アトリエでは5歳の子供達が紙粘土を使って、9月の誕生会のケーキを飾る目的で恐竜を作っています。ケーキは毎月どのようなものにするかを5歳の担当者と話し合い、使いたい材料や作り方を考えます。互いの作ったものを見合い「カッコいいね」と言葉をかけたり、一緒に作ることで刺激し合いさらなる工夫が生まれたり、年長児らしい関わりが随所で見られます。

この日もTくんは分厚く重い恐竜図鑑をアトリエに持ち込みリアルさを追求し、片やHくんは自分の頭の中にあるイメージを形にしてドラゴンを作り上げています。

3歳のAくんが大量の油粘土で遊んでいます。いつも机上で扱う10倍の量の粘土が登場し、部屋全体にシートを敷いて床で活動しています。机上とは違い、手や足、さら



さらに全身を使った粘土との関わりが生まれます。重く大きな粘土の塊は、体力が増した子ども達のパワーをもしっかりと受け止めてくれます。Yさんの粘土の世界には普段遊んでいるフィギアの動物達がやって来ました。3歳は空想力が遅く、粘土以外のモノも組み合わせてファンタジーの世界を広げています。



1歳の子供達が小麦粉粘土を楽しんでいます。粘土遊びといっても、1歳の子供達にとっては、粘土は何かを作るためのモノではなく手触りを味わう感触素材です。Oさんは不思議な感じで伸びる粘土の様子に目が釘付けです。Kくんは両手に巻きつけた粘土の感触をしばらくは楽しそうに味わっていましたが、なかなか自分の思い通りにはならないことにも気づき、ちょっぴり戸惑いながら両手を見つめています。

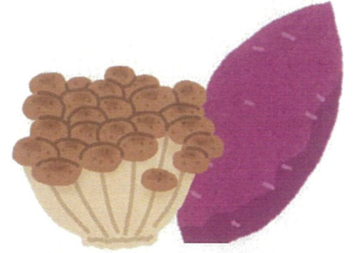
冒頭は、暖かな人間愛と科学的な知見の中で豊かな子どもの成長を指南してくれた児童精神科医の佐々木正美さんの言葉です。日常的に触れているブロックなどとは一味違う粘土との関わりから、目の前の子ども達はその言葉の裏に隠された大切な意味を分かりやすく示してくれるように思います。(文責：一然)

Lunch & Snack time

食育だより

食欲の秋です！

実りの秋になりました。食べ物の旬を知り、味わうことで、豊かな感性を育てたいですね。毎日の食卓に旬の食材を取り入れて、季節の恵みを楽しみましょう。



△△「自分でおにぎりを握る」に挑戦 △△

新米の美味しい季節、3歳・4歳・5歳は、おにぎり作りに挑戦しました。4歳児3歳児クラスは多くの子ども達が初めての体験だったようです。「おにぎりって作れるの?」と、デモンストレーションを不思議そうに見ている子どももいました。



作り始めると、泥団子のようなまん丸型、ぎゅうぎゅうに握った三角型、上手に握れず形にならないなど、個性溢れるおにぎりが出来上がりました。形はさておき、自分で握ったおにぎりの味は格別だったようで、どのクラスも美味しい笑顔でいっぱいになりました。お代わりをする子が沢山いました。

保護者の皆様は、どんなおにぎりがお好みですか。ふっくら握り、それともしっかり三角?海苔しっとり派?パリパリ派? 家族のお好みの具材を準備して、ご家庭でも挑戦してみてくださいね!



☆今が旬! ☆ このコーナーでは旬の食材を紹介していきます

わたしは、「きのこ山 しいたけ」です!

わたしは、きのこ類の「しいたけ」です。子どもには、あまり人気がありません・・・。

わたしの特徴は、うまみ成分たっぷりで香りが豊かです。「食欲の秋」には欠かせない食材の一つです。年中手に入りやすいことから「四季茸」と言われ、それが変化して「シイタケ」と呼ばれるようになった説と、椎の木によく発生していたことから「シイタケ」と呼ばれるようになった説があります。

わたしには、食物繊維・ビタミンDなどの栄養があります。食物繊維は、腸の働きを整えお通じをよくします。ビタミンDは、骨の成長に欠かせません。給食に登場時は、一口でも食べてもらえたら嬉しいです。



10月のほけんだより

もうすぐ待ちに待った運動会！子どもたちが運動会の練習を頑張る姿が見られます。10歳未満の子どもの新型コロナウイルス感染が報じられるこの頃です。0歳児クラスの園児さんも登園すると「ア…ン」「ア…パン」と言いながら手を差し出し、スプレーをすると手を摺合せ、手指消毒が出来るようになっていきます。運動会に元気に参加できるように感染対策をするとともに健康管理をしていきましょう。



10月10日は目の愛護デー 目を大切に

乳幼児期は子どもの目が最も育つ時期。子どもは視覚に異常を生じても自分で症状を訴える事は困難。気になる時は眼科受診をしましょう。

「見る力」を育てるポイント

明るさ、暗さのメリハリある生活を
日中は光を浴び、夜は暗くして眠る。

広い空間で体と目を動かし、色々なものを見る体験を

日々遠くのものや近くのものを見たり動くものを目で追ったりしてものを見る体験は、眼球、視神経、脳の発達を促します。

あと10分 テレビやゲームは時間を決めて
は、テレビは正面から見る。
い携帯ゲームなどは目の負担になるので乳幼児は避ける。

こんな見方は危険信号！

- ・テレビや絵本に近付いて見る
- ・まぶしがる
- ・目を細めて見る
- ・目つきが悪い、目が寄っている
- ・見る時に首を曲げたり、頭を傾ける

足に合った靴をえらぼう

靴が足に合っていないと、不自然な足の使い方、歩き方のまま足が育つこととなります。また、思いがけないケガをすることもあります。秋のお散歩シーズンに靴を見直しましょう。

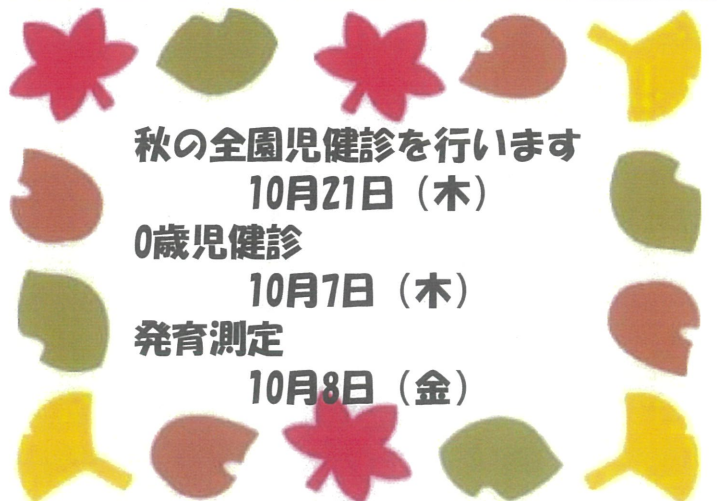
調整ベルト付き

足を固定し足と靴を一体化させます



つま先にゆとりがある
理想は5mm
指が自由に動かせることが大事

柔らかく、クッション性のある靴底



秋の全園児健診を行います

10月21日（木）

0歳児健診

10月7日（木）

発育測定

10月8日（金）

#ユナタン4

2021年10月 片山喜章

グループの仲間だからこそ

法人内のある園の5歳児クラスでは、当番活動として生き物のお世話を行なっています。前年度の5歳児から引き継いだ小動物や、4歳児から一緒に“進級”した虫たちなど、カニ、カタツムリ、メダカなど、たくさんの生き物が“クラスメイト”です。みんなで話し合い、5つの生活グループが日替わりでお世話をするようになりました。そこで1つのグループで起きたある日のナラティブ（物語）です。

当番活動がはじまってしばらくすると、ダイヤグループの**トムくん**の様子が少しおかしいのです。生き物にほとんど関わらず、当番の日は早くお迎えに来てもらっていることもありましたが（活動は16時以降）。以前から気になっていた花子先生は、**トム**にゆっくりと尋ねてみると、「虫が苦手やねん」「時間が長く遊び時間が少なくなる（当番をしながら長時間生き物と遊ぶことがある）」とのこと。花子先生は**トム**には何も答えず、「そんな**トム**の気持ち、グループの仲間（全員で6名）は知っているの？」と尋ねました。「誰にも自分の気持ちを言っていない」と答えたので「どうする？」と突っ込んだところ、**トム**の方から「一回、みんなに言ってみる。けど、先生も一緒にいてほしい」。トムが、自分の気持ちをみんなに伝えたいと答えたので、グループで話し合いの時間をもちました。

花子先生「**トム**がみんなに聴いて欲しいことがあるんだって」

全員「いいよ～なに～？」

トム「あの～虫のお当番、シンドイ、やめていい？」

少しの沈黙の後、エバが口を開きました。

エバ「何がシンドイの？」

トム「虫を触るの、怖いねん」

エバ「カタツムリ？ メダカ？ カニ？」

トム「ぜんぶ」

エバ「ぜんぶ？ カニはハサミがこわいん？」

トム「挟まれたら嫌やから」

マイケル「カタツムリはべたべたしてるもんな」

トム「そう、手に乗せたら、べちょべちょになるもん」

ララ「わたしも苦手。可愛いけど、手に乗せたらべちょべちょになるもん」

エバ「ララは苦手やから、蓋に乗せてるよな～」

キキ「わたしもカニ怖いけど、エバに持ち方教えてもらって触れるようになったで～」

トムは、ただ聞いているだけで何もいえないままでした。そんな空気を読んだエバは少し間をおいて「他に何か嫌なことある？」と話を変えました。

トム「お当番の時間が長いから遊ばれへんのが嫌や」

エバ「でもさ、たくさん虫いるから時間かかるねんな〜」

マイケル「お世話もやけど、カタツムリと遊んであげないとかわいそうやしな〜」

エバ「トムまだ嫌なことある？」

トム「もうない」

エバ「虫のお当番だけ嫌なん？ 他のお当番は？ ホウキとか、靴箱とか、雑巾とか、給食とか、朝の会とかあるけど…」

トム「虫のお当番だけや。他のは楽しい。だから虫のお当番、やめてもいい?!」

全員「……。」

トムがお当番を辞めたい理由は、虫が嫌いでも時間も長いことだと、グループの仲間は理解したようです。花子先生は改めてトムの気持ちを確認しました。グループの仲間は一瞬、黙ったまま、あれこれ考えを巡らせていました。すると…

マイケル「あのさあ、トムにやめてほしくない。なんでか言うと、虫さんたくさんいるから大変やもん。キキちゃんも早くお迎え来るし、ポビーもスイミングで早く帰る日あるし、トムもお迎えが早い時があるから、3人とかでお世話するん大変やから、やめてほしくない」

エバ「エバもやめてほしくない。エバもめんどくさい時もあるし、遊びたい時もあるけどお世話しないと死んでしまうやん。もう死んでほしくないし、このグループみんなでしたい」

キキ「キキも虫のお世話、大変やけどやめてほしくない」

ララ「ララもトム、やめるんは嫌や」

ポビー「ぼくはお世話するの大好きやけど」

エバ「そしたらトムがお当番、やめてもいいん？」

ポビー「……。」

そこで花子先生は、トムに尋ねてみました。

花子先生「みんな、トムにお当番、やめてほしくないみたいけど、トムはどう？」

トム「…でも、やめたい」

エバ「でもさ、エバもめんどくさい時あるけど、お世話しなかったら死んじゃうで。みんなでお世話しようと思ったやろ？」

トム「虫触るの苦手やし時間も長いし…」

エバ「じゃ〜さ、トムは何やったらできるん？」

子どもたちの話し合いの方向が少し変わってきました。

キキ「トム、水槽とか水草とか石を洗うのやったらできる？」

ララ「トム、前、それしてたやん」

エバ「虫を触るの嫌やったら、エサいれたり、お家、きれいにしたりとかやったらできる？」

トム「それやったらできる」

エバ「えっ！ できるん！ じゃ〜カニ、エバが持ってあげるから言うてな」

キキ「トム、ほんまにできそう？」

トム「うん、できる！」

その後も、話はぐんぐん深まり、みんなはトムを励ますように、「こんな時はぼくが…」「そんな時は私が…」とトムへのヘルプやフォローの話で盛り上がりました。まだまだ話は続きます。今度は、お世話のついでにその場でだらだらと遊んでいること、お世話から“解放”されるのかいつか、ということについて審議していました。

マイケル「カタツムリさん、可愛いもん、ずっと遊んでいたい」

花子先生「他のみんなはどう思う？」

トム「早く終わって他の遊びしたい」

全員「……」

エバ「だってそこに時計ないからわからへん」

実際、お当番活動は、お世話をしながら、生き物と遊んでしまうことが多く。毎回45分間くらいかかっていたようです。トムはそれも嫌だったようです。そこで「どうしたらいい？」という花子先生の問いに、まずは「自分たちで決めるから」と言って、話し合った末に、“16時から16時30分までとする”と決めました。見える場所に時計はありますが、エバは「先生、長い針が6のところになって忘れてたら、教えてな」と念押しもしていました。話を始めて終えるまで40分以上、経過していました。

5歳児にもなると、これくらい筋道を立てて自分の思いを表現し、相手の気持ちを理解し、対話することができるのです。そのためには保育者や保護者である大人が、普段から、それこそ、1、2歳の頃から、「何がしたいの？」「どちらが良いの？」「どう思うの？」「どんな気持ちでいるの？」と常に問いかける保育を基本にしていないとこのような子ども文化は育まれなんでしょう。まだまだ日本各地では子どもに問いかけても結局、大人都合の答えに誘導したり、逆に不本意だけど子どもにおもねたりするケースが多いと思われます。トムの思いや願い=“わがまま”は、保育者が判断することではなく、グループの問題ですから、当事者で長い時間をかけて“子どもらしい”対話することで解消しました。

子どもに寄り添うとは、子どもの言いなりになることではなくて、一人ひとりの思いや願いを丁寧に傾聴することから始まります。あとはお当番という子どもたち自身の生活の世界のことですから、解決のための対話を促す、これが保育者（大人）の大きな役割です。子ども（たち）を1人の人間として認めるマインド（度量）を保育者は体得し、保育者自身が「豊か（成長）になること」と「子どもたちの問題解決力」は並走するものだと思います。子どもに寄り添うことは、時には心地よく、時には疎ましく、時には忍耐が必要であり、最後には、私自身が変わることであり、と気づかされるのがよくあります。

